

新入生の皆さま、ご入学、おめでとうございます。焼津市内の至るところに桜が咲き誇るこの季節、ご入学を教職員そろって歓迎いたします。共にこの日をお迎えになったご家族の方々、静岡福祉大学によろこそお越しくございました。心から敬意と祝意を表します。

また本日、ここにご多用中の焼津市長・中野弘道様をはじめ、ご来賓の方々にご臨席を賜り、入学式を挙行できますことに、教職員を代表して感謝申し上げます。

本日、めでたく静岡福祉大学に入学した学生は、福祉心理学科、医療福祉学科、健康福祉学科、子ども学科、そして編入学あわせて198名になります。

静岡福祉大学は、平成16年、福祉専門職を養成する高等教育機関として開学し、今年度は14年目を歩み始めました。本学の教育理念は「福祉力を鍛える」であり、その使命として、「実践力のある福祉・教育専門職の養成を通じて福祉社会を実現する」ことをうたっています。

福祉社会とは、まさに本学が高等教育機関として養成を担っているところの、専門職が支える社会であり、子育てから介護まで安心できる社会であり、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もがその能力と発達を自覚でき、そして、その能力によって豊かな人生を過ごすことが可能な社会を指します。

また、日本の大学のなかで私立大学が占める割合は8割であり、私立大学ならではの役割を果たすことが期待されています。在学生数においても約290万人のうち210万人が私立大学の学生であり、7割を超えています。その意味では、静岡福祉大学も私立大学ならではの特色を活かして、市民の期待に応えねばなりません。学生一人ひとりを着実に教育し、社会に送り出し、地域を支える市民として活躍するという成果を示すことこそが、高等教育機関としての信頼を得ることにほかなりません。それこそがまさに、地方創生の実現と言えるのではないのでしょうか。

今ほど、高等教育機関が地域の社会資源として期待されている時代はありません。地方創生の枠組みにおいて、行政と大学の提携も各地で進められています。本学もまた、焼津市や近隣の市町との協定を通じて、子育て支援をはじめ、多くの事業を通じた地域の活性化に寄与しています。

本学で学ぶ学生の皆様をお願いしたいことは、4年間、あるいは編入した学生は3年という期間を通じて、皆様が生まれ育った地域の人々の期待に応えるだけの専門性を身につけて欲しいということです。

そのために教員に限らず、全ての教職員が学生を支えていくことをお約束

します。本学は教員と学生の距離が近いと言われます。合う。ぜひ、今日から始まる大学生活を人生におけるかけがいのない、貴重な、そして自らが大きく飛躍する経験の場としていただきたいと思います。

同時に、本学は焼津市に立地しますが、焼津には素晴らしい自然環境があります。大学での学びにとどまらず、海の幸山の幸に舌鼓を打ち、自然と出会い、地域の人々の優しさに触れることを通じて、人生における本当の豊かさを満喫してください。

そんなキャンパスライフを通じて、自分の夢を発見し、社会に向けて強く羽ばたいて欲しいと心から願っています。

本日はご入学、おめでとうございます。